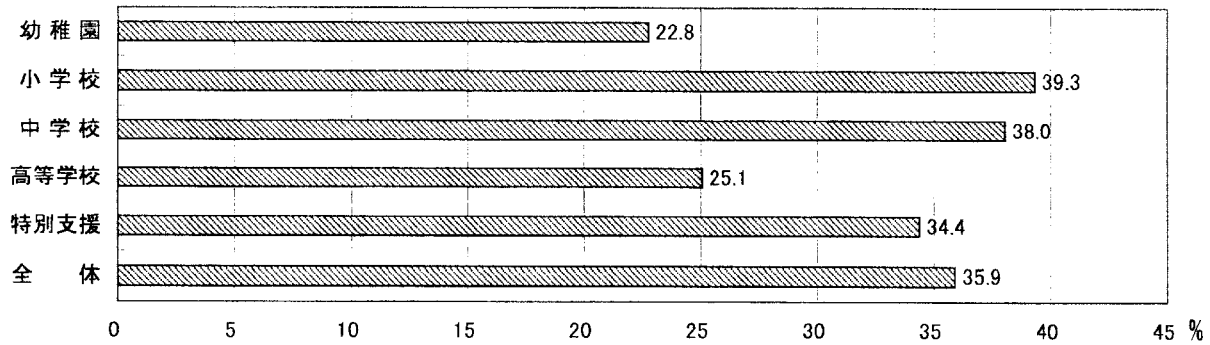


# 児童虐待について

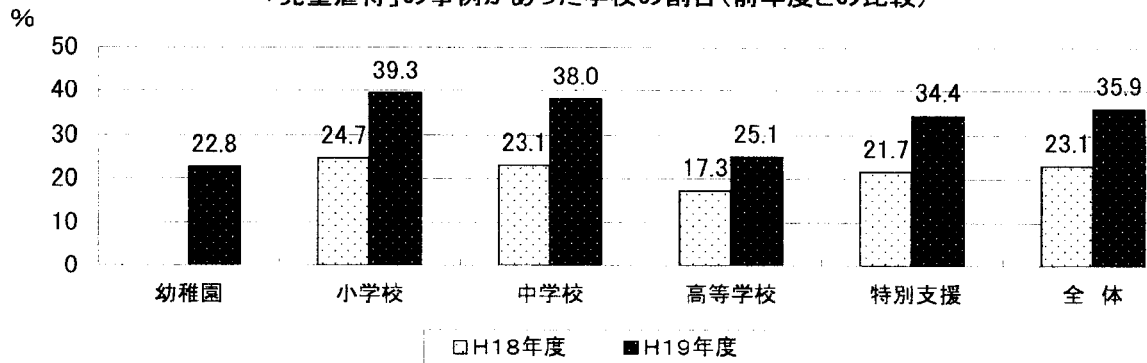
## 全国養護教諭連絡協議会

本会で行った養護教諭の職務に関する調査(平成20年3月実施)の中で児童虐待についての結果の一部を報告します。

平成19年度内に「児童虐待」の事例があった学校の割合(%)

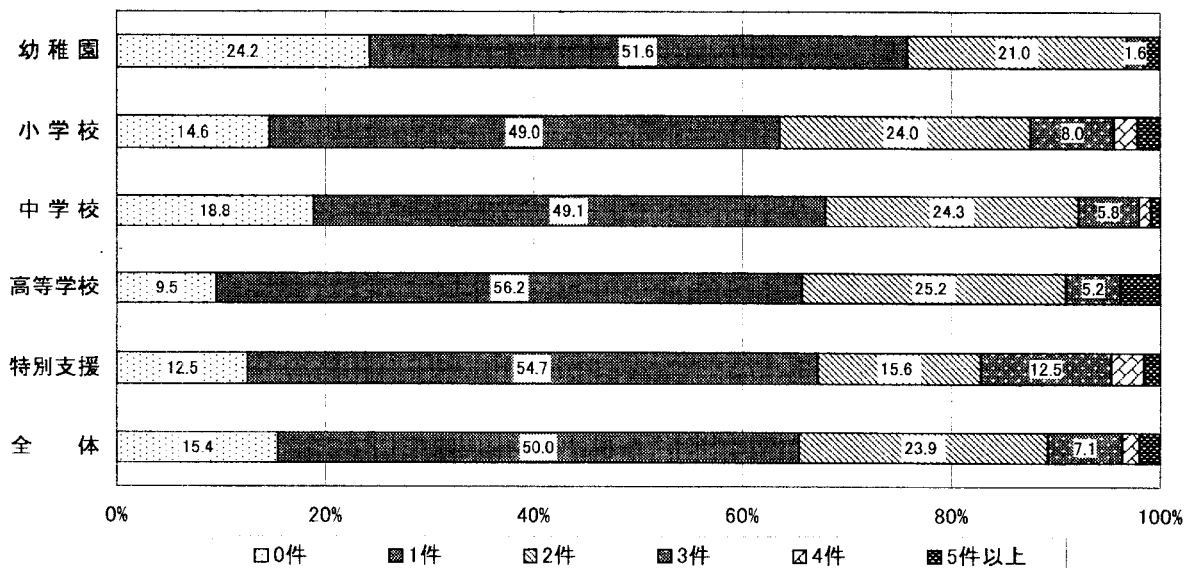


「児童虐待」の事例があった学校の割合(前年度との比較)

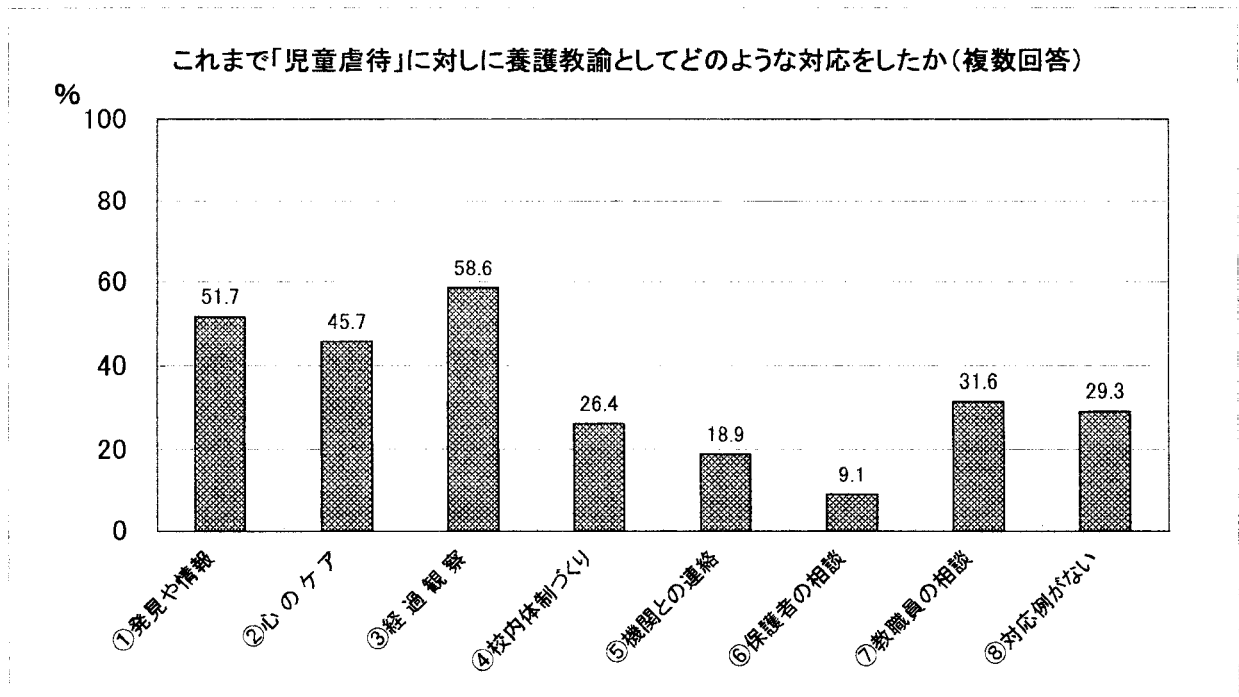


- 「児童虐待の事例があった学校」を校種別に見ると、小学校の割合が39.3%で一番高い。次いで中学校が38.0%、特別支援学校が34.4%、高等学校が25.1%、幼稚園22.8%の順である。
- 全体では、児童虐待の事例がある学校の割合は35.9%である。
- 前年度と比較して見ると、全ての校種で対応事例の割合が増加している。(幼稚園は、H18年度未調査)

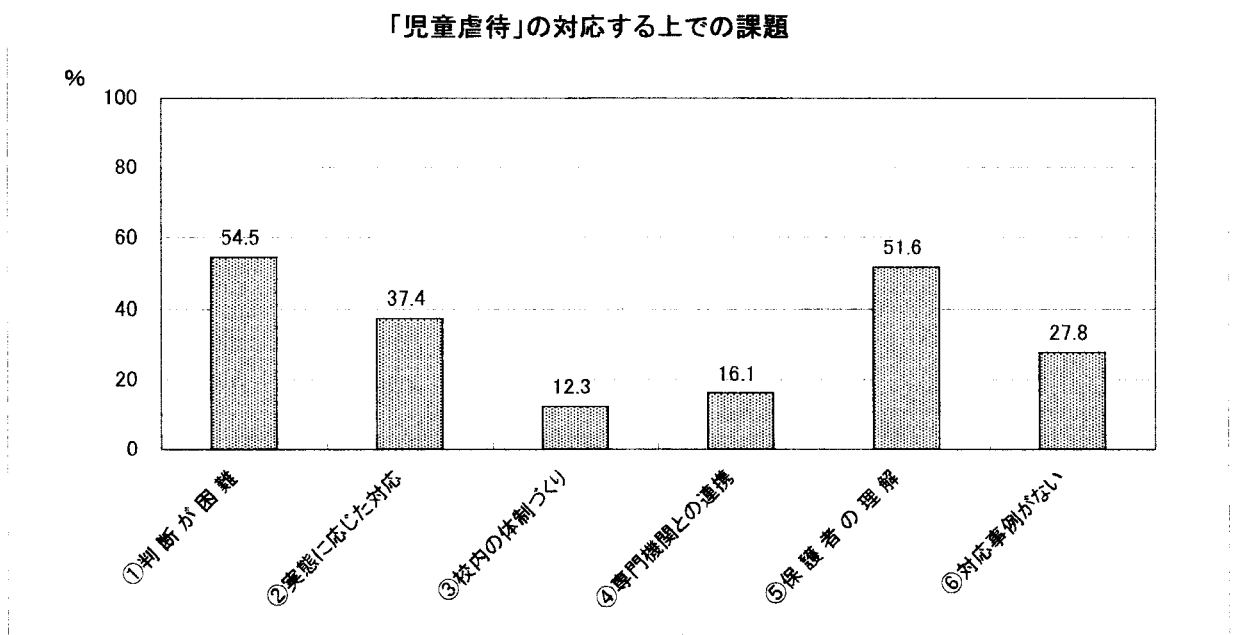
「児童虐待」で養護教諭が対応した年間事例数



- 「児童虐待への対応事例件数」を校種別に見ると、どの校種も1件と回答した割合が一番高い。次いで、幼稚園では0件、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校では2件の順である。
- 全体では、1件の割合が50.0%が一番高い。次いで、2件が23.9%、0件が15.4%の順である。



○「これまでに養護教諭としてどのような対応をしたか」では、「虐待を受けた児童生徒の経過観察」の割合が58.6%で一番高い。次いで、「発見や情報提供」が51.7%、「虐待を受けた児童生徒の心のケア」が45.7%の順である。



○「児童虐待の対応をする上での課題」では、「虐待かどうかの判断が難しい」の割合が54.5%で一番高い。次いで、「保護者の理解・協力・連携が難しい」が51.6%、「虐待の実態に応じた対応が難しい」が37.4%の順である。